

2019

4-5月

# はしかけニューズレター

2019年度 第1号 通巻146号

2019年(平成31年)4月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 下松・八尋・松岡)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ : <https://www.biwahaku.jp>

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

## ～ 目次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバはしかけ
- (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
- (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
- (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会

### 3. 生活実験工房からのお知らせ

### 4. その他の事項

会員数 ... 362人

グループ数 26グループ

(2019年4月1日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

### (1) 更新手続きについて

年度末更新手続きをお忘れの方は、次の方法で更新を受け付けます。更新受付票の提出 (FAX、メール添付など) と合わせて、ボランティア活動保険料510円の納入をお願いします。ただし、はしかけ以外の活動団体ですすでにボランティア保険に加入されている方は不要です。

納入方法は、郵便振替口座への振替あるいは振込に限らせていただきます。郵便振替口座 (00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度) 宛に、510円の振り込み (手数料別) をお願いします。

ただし、4月1日以降の更新手続きについては、手続き希望者が一定数まとまった段階で行いますので、更新受付票を送付頂いてから名札等をお送りするまで、1~2か月程度の期間が空くことがありますので、ご了承ください。

### (2) 2019年度 第1回はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第1回を2019年5月26日 (日) に開催します。各グループの代表の方には、可能な限り、活動紹介をお願いしております (約2分間の活動紹介)。場所: 琵琶湖博物館セミナー室 受付: 13:00~ 開始: 13:30~

### (3) はしかけ新グループの発足について

4月1日付で、新グループ「海浜植物守りたい」が発足しました。担当は大概学芸員です。来号より、ニューズレターにも投稿頂く予定です。

(下松 孝秀)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 58名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田征也

#### 【活動報告】

##### ■ 1月20日(日) 京都水族館見学会 参加者30名

新年最初のうおの会の活動は「京都水族館」の見学会でした。当日はあいにくの雨となりましたが、集合時間に全員揃い、入場料もお釣りの出ないよう持ってきていただいたおかげで、スムーズに入場できました。流石です!

入場してからは参加人数が多かったため、2つのグループに分かれ、水族館副館長の関慎太郎さんに館内を案内していただきました。皆さんすごいですね、淡水魚だけでなく海水魚でも盛り上がるし(※主に“味”の話だったような!?)、水槽の前から離れないし(※野外の池の前で、見えている魚が何か議論していたのが一番長かった!)、質問は止まらないしかなり有意義な時間になったのではないかと思います。

館内ツアーが終わった参加者から自由解散となり、イルカパフォーマンスを観に行く人、もう一度館内を周る人、淡水魚のゾーンから動かない人……。解散後も皆さんそれぞれの方法で水族館を満喫していました。来月は毎年恒例の調査まとめです!  
(報告: 竹元冴矢 / ※は中尾追記)

##### ■ 2月17日(日) 勉強会、年度データまとめの会 場所: 琵琶湖博物館会議室 参加者: 28名

実はいおの会の会員はあまり集まることのない博物館。この日は第3日曜日とロビーコンサートが重なって館内は満員、駐車場もいっぱい。皆さん驚いた顔で会議室に集合しました。勉強会前半はいおの会副担当である田畑諒一学芸員の講演「分子系統解析からみた琵琶湖産魚類の起源/タニガワナマズ発見の経緯」を拝聴。少し難しい話でしたが、DNA(遺伝子)解析で琵琶湖の魚類分化が40万年より古い時代に起こったであろうこと、また見た目とDNA解析の一致や差異など、日ごろあまり聞けない話を聞くことができました。魚類分化の研究の途中で、系統樹から外れた系統であるタニガワナマズが発見されたとのこと。主に中部地方に分布するタニガワナマズはDNA的にはイワトコナマズに近いのですが、滋賀県にはいない可能性が高いそうです。ただし注意して見ておいて欲しいとのことで、今後会員の間でナマズ熱が起こるかもしれません。

勉強会後半は例年通りに今年度調査のまとめで分布地図を作成しました。参加者全員で調査地点にシールを貼ったり、魚種の絵を切り抜いたり、調査地点に魚種を貼ったり、和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。出来上がってみると、今年度の調査ではほぼ毎回、例年に比べて多数の魚種が観察されていたことがわかりました。うおの会にとっては実りの多い1年だったようです。  
(報告 石井千津)

#### 【活動予定】

■総会 3月31日(※少し前までHPでは24日となっていました、31日開催です)

■4月以降の調査地や調査テーマは、総会で発表します!行ってみたい川や地域の提案も随時お待ちしております。

#### 【会員更新について】

■うおの会では、はしかけ登録以外に、会員登録用紙の提出をお願いしています。まだの方は、うおの会 Web サイトからダウンロードできるので、記入の上、運営委員に手渡し、下記アドレスまで送付して下さい。

hashi-uonokai@biwahaku.jp

### 【活動報告】

#### ■ 1月10日(木) 場所：甲賀市甲南町 参加者：1名

甲賀准四国 19 番札所 七ツ池地藏堂で厨子と掛額を確認

2014 年以來 5 年ぶりに再訪し地藏堂の隣に建てられている大師堂と思われるお堂を調査、今郷浄土寺や飯道寺と同型の厨子と掛額を確認した。厨子に納められている大師像と掛額の裏面確認も早急に実施したい。



七ツ池地藏堂の外観 (左側の建物が大師堂)



浄土寺や飯道寺と同型の厨子と掛額

#### ■ 1月24日(木) 場所：甲賀市水口町 参加者：3名(一般27名)

60年の歴史のある水口町郷土史会の歴史講座で今郷好日会のまちづくり活動を発表

テーマは「まちづくりの原点 水口名物かんぴょう物語」ですが、活動内容の介の中で、「近江 巡礼の歴史勉強会」に関する活動も説明。山伏の古文書(配札記録)から甲賀准四国設置由来や納経帳の発見について発表する機会を得た。



郷土史会での発表風景



古文書や中世城館跡の発見も説明

#### ■ 2月18日(月) 場所：甲賀市水口町 参加者：2名(一般2名)

甲賀市議会議員と修験の聖地飯道寺遺跡を探訪

杖の権現から、飯道山の聖地である古権現と呼ばれる頂上へ登り、飯道神社と飯道寺塔頭跡を散策、途中では頂上直下の三基の古墳跡や祭祀場ともいわれる龍池など地元でも知られていない場所も見学。豊臣秀吉と親交のあった木喰応其の入定窟や天正伊賀の乱の後に飯道寺に宿泊した織田信長ゆかりの地や修験の行場体験もしていただきました。修験、山伏、忍者についての正しい認識や明治以降の甲賀の歴史を知っていただく機会になりました。



飯道寺城と称された塔頭跡が今も残る



修験の行場を体験

■ 3月18日(月) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名(一般14名)

江州岩上講春の大祭に参加

岩神社の上にある岩上不動尊の護摩供養に参加。宝善寺から岩神社経由で岩上不動尊へ向かいます。護摩供養は神仏を供養し、除災招福を祈る儀式の事です。密教独特の護摩は、密教系の寺院においておこなわれる修法で、護摩の火で、煩惱や一切の苦を焼き尽くします。岩上講は吉野の竹林院に属していますが、竹林院は飯道寺や善水寺との関係が深い寺院であったことが最近わかりました。修験道と山伏に関する歴史ある講を続けられておられることに感動しました。巡礼の歴史の原点ともいえるこの儀式に参加して祈りの深さを実感した。



八大龍王尊に祈りを捧げる儀式



護摩供養で家内安全、交通安全を祈願

【活動予定】

- ・琵琶湖博物館で「近江 巡礼の歴史勉強会」の総会を実施する。(3月21日予定)
- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・石碑の現存する53ヶ寺の拓本採集を進める。

(福野憲二)

\*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



### (3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹 榎永一宏

#### 【活動報告】

##### ■ 1月27日(日) 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 5名

博物館から雪の比良山をスケッチしたり、オープンラボで狐の剥製や蝶をそれぞれスケッチする。

##### ■ 2月24日(日) 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 6名

博物館内のオープンラボで鳥やねずみの剥製、蝶などをそれぞれスケッチする。

#### 【活動予定】

##### ■ 3月24日(日)

近江鉄道水口石橋駅の周辺でスケッチを行います。

集合場所/甲西駅近く 東海道沿いセブンイレブン駐車場(針交差点、平和堂の向かい)

集合時間/10時30分(14時ごろ解散予定)

※足がない方はあらかじめご相談ください。

##### ■ 4月20日(土)

湖西の棚田でウォーキングおよびスケッチを行います。

※集合場所と時間については後日連絡させていただきます。

##### ■ 5月26日(日)

浜大津付近で港の風景などをスケッチの予定です。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください。



### (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

#### 【活動報告】

##### 織姫の会

##### ■ 1月26日(土) 参加者: 3名

地機の機上げ作業を行いました。前回、チキりに巻いた経糸をアゼ返しして綜紵をとりました。紺色が多いので、糸が見えづらく、なかなか難しい作業でした。

##### ■ 2月6日(水) 参加者: 3名

今年もこんにやく作りを行いました。今回はイモ4kgを使い、16kgのこんにやくができました。

##### ■ 2月23日(土) 参加者: 3名

地機を織り始めたところ、糸がおかしかったので修正を行いました。綜紵の間違いやアゼの修正に手間取りましたが、やっと織り始めることができました。

##### ■ 3月6日(水) 参加者: 3名

各自の作業、綿繰り。



2月23日地機の織りだし

#### 【活動予定】

##### ■ 織姫の会

3月23日(土)、4月6日(土)、24日(水)、5月11日(土)、29日(水)、6月8日(土)、26日(水)

(辻川智代)



## (5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

### 【活動報告】

#### ■ 1月20日(日) 参加者: 13名

(1) 1部 10:00 - 12:00 大人のディスカバリー

モニターを活用したメンバーの自慢の岩石のPRや収集した得体の分からない岩石の質問などを行い、自己研鑽と「大津の岩石調査隊」のPRをした。昨年のびわ博フィスでの報告で皆さん慣れて、申し込み順に計7名がPRしました。大きな石を持参しPRした人、見たこともないような石を持参した人等、色々ありで盛況でした。滋賀の大地は1億年以上の付加体と、70Ma以前の古い火山、新しい堆積岩、遠くの火山から飛来したり、流れてきた土砂流木等、それらが入り組んだ地層からなります。大津の岩石調査隊は、その1億年以上の謎解きをしていることに、皆さん、焦らず、楽しんでいることが感じられました。なお、専門家には苦しみと楽しさが伴うのでしょうか。

(2) 2部 里口さんの書かれた書籍『琵琶湖はいつできた』- 地層が伝える過去の環境 -に関する講和 -

最近、書かれた本の丁寧な説明がありました。人気を博して2版が出されたとのこと。里口さんの専門である火山灰を活用し、琵琶湖の成因、移動の原因等、広範囲の説明がありました。質問も続発し、予定の時間では終わらないので2月に里口さんから再度、講話を頂くことにしました。質問は多方面にわたり、岩石の教育論にも及びました。この議論は実に面白かった。中学1年から後期高齢者までで、岩石の教育論を考えるのも面白いと思います。今回は現役の教育者はいませんでした。メンバーにはいます。高齢者は座学、実学も含め、実に多様な教育を受けていますし、実施もしてきました。

#### ■ 2月24日(日) 参加者: 10名

(1) 1部は2/9に開催された「地学研究発表会」で山野井報告「金勝山水晶古線で見つけた不審な花崗岩中の黒い岩石は何?」、梅澤報告「大津市・相模川の上流沿いに点在する特異な角礫岩について」に、最近の新規情報を追加しものの報告があった。山野井等の見つけた岩石の現時点での正体は石英安山岩とのことである。また、露頭の確認はできていなくて転石とのこと。貴重な石の可能性もあるので、露頭の確認も含め、調査を続行すべしとの意見があった。梅澤は少しモデファイし「大津の岩石調査隊5年」それから感じたこと、の報告をした。岩石の研究をすることにより、本質への探求心が強まり、視野も広がったという実感のPRである。また、断層のすべり面の表面の観察と立体的な観察から、断層面で岩石が角礫化する場の特定が出来たとの報告である。「特異な角礫岩」の成因に繋がる可能性の一つの要因が見つかったかもしれないとの報告である。

(2) 2部 里口さんの書かれた書籍『琵琶湖はいつできた』- 地層が伝える過去の環境 -に関する講和 - (前回のつづき)

前月に続き、里口さんから、専門である火山灰を活用し、琵琶湖の成因、移動の原因等、広範囲の説明がありました。質問も続発し、再再度の講話を頂くのは申し訳ないので、質問を少なくして頂くことで講話を終えた。その中で、五軒茶屋火山灰の研究から、2Maほど前には飛騨から淡路島までもつながる長大な流れがあったとのことのお話があった。琵琶湖の移動にもロマンがあるが、未解明のこの川も日本列島創成以来、最大の川であった可能性が示唆される物であった。琵琶湖周辺にはまだまだロマンが埋まっているかもしれない。今後、滋賀や近畿の地学の研究をする人、テーマを探す人にとって、本書は優れた本になるものと感じた。

### 【活動予定】

#### ■ 3月23日(土) 実施予定

鞍馬方面の調査を行います。詳細、隊員へは連絡済。

#### ■ 4月24日(水) 実施予定

野洲方面の花崗岩の調査を行います。詳細、後日。



## (6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

### 【活動報告】

#### ■ 2月16日(土) 9:30~12:00 撮影会: 博物館周辺の冬 場所: 博物館周辺 参加者: 9名

冬のからすま半島の風景、自然、生き物の撮影を行いました。

風車のなくなったからすま半島の風景は少しさみしいものがありました。

### 【活動予定】

#### ■ 3月23日(土) 9:30~12:00 博物館会議室

2018年度の総会として今年度の活動のふりかえりと来年度の計画をたてます。



## (7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

### 【活動報告】

■ 2月11日(月) 13:30~16:00 微小な化石の標本の同定・整理作業(多賀町発掘資料)

場所: 琵琶湖博物館 1F おとなのディスカバリー内 オープンラボ 参加者: 11名

活動内容: 2019年1月の活動に引き続き、多賀の発掘現場の土の小割り作業などで採取した微小な化石の標本の同定作業(採取した化石が何の化石なのか調べる作業)をおこないました。2回目の作業で、機材の準備などもメンバー同士で協力し合い、手際よく進めることができました。

大きさが数mmほどの小さな化石を、実体顕微鏡下で目を凝らしながら観察し、化石の特徴をスケッチしたり、図鑑で調べたり、仲間と議論していきました。何の化石なのか調べる作業は、とても興味深く、楽しい作業です。

そして、自分で観察したり同定した化石について、メンバー達自身が標本目録に書き込んでいきました。これらの標本目録は、化石のスケッチとともに、古琵琶湖発掘調査隊の大切な活動の記録となりました。

活動のまとめでは、オープンラボ内のモニターを使って、学芸員の山川さんによる、この日同定できた標本についての解説があり、それぞれの化石の特徴などを学びました。

この日は、アスナロの葉の化石や、キクロカリア(クルミの仲間)の化石などを同定することができました。



### 【活動予定】

■ 日時: 3月17日(日) 13:30~ 総会 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

■ 日時: 4月14日(日) 『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第七次発掘調査』に向けての勉強会 場所: 実習室1

■ 日時: 4月20日(土) ~4月30日(火) 『多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第七次発掘調査』に参加



## (9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

### 【活動報告】 紙芝居上演

3月10日は曇り空であったためか、たくさん子ども達が集まってくれました。いつもより少し年齢が高い子ども達が多かったので、紙芝居の導入部の生きものあてなども、とても元気にできました。今回から、琵琶湖の生きものの種類を一部入れ替え、「カワウ」と「ゲンジボタル」が入りました

### 【活動予定】

■ 5月26日(日) 13:00 実習室1集合 はしかけ登録講座  
紙芝居上演



## (10) ゼ! ディスカバはしかけ

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 3名 】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子、妹尾裕介

ことは すっかり春の陽気ですね。ゼ! ディスカバはしかけは、今年度最後で初試みのイベントふろしきで遊ぼうを実施しました。一枚の布がいろんなものを運ぶ道具に返信する方法を大人も子どもも一緒に楽しみました。来年度は飛ぶタネイベントでスタートです。



### 【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ	2月11日(月祝) 13:30-、14:30-	ふろしきであそぼう!	大人と子どもと一緒に楽しんでもらえました。最後はみんなで忍者に変身! 参加者13名、はしかけ3名



### ～メンバーからのメッセージ～Vol. 49

私自身、風呂敷が大好きで、京都の風呂式メーカーさんの教室に参加して以来、風呂敷の素晴らしさを伝えたいと思っていたので、念願だった風呂敷のワークショップを開催出来て、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

吉野

### 【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ	4月6日(土) 13:30-、14:30-	飛ぶタネ	飛ぶタネの模型を作って、どんなふうか見てみよう。(準備は10時集合)

ディスカバリアルームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に中村・妹尾まで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)していきましょう!



## (11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 35名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp (登録会員数: 36名) グループ担当職員: 山本綾美

### 【活動報告】

#### ■ 3月2日(土) キノコ植菌、木工、山菜試食&総会 参加者: 17名



本日総会、でもせっかく集まるのでいろいろ楽しむ時間も持ちましょう！ということで、午前中に生活実習工房で活動しました。まずは、木工、森の色鉛筆づくりです。桜の小枝にドリルで穴をあけて好きな色の芯を入れて、鉛筆削りをして出来上がり。書くとは簡単ですがこれが意外と難しい！桜の木は堅いのです（^^）でも、苦労したかいがあつてとってもすてきな鉛筆が出来ました！同時進行で、きのこの菌打ちも始まりました、毎年メンバーの寺尾さんが原木や菌を準備してくれてくれます。トントン菌を打ち込むのは子どもも楽しい作業です。原木シイタケの味は格別ですからね、収穫も楽しみです。工房の中の方では、山菜の天ぷらとみそ汁とおひたしの調理中、内と外と交代しながらみんなで楽しみました。

さあ、いい天気、お昼は外にテーブルを出してみんなでいただきまーす。午後の総会もそのまま外でしました。総会では、今年の活動の評価と来年度の計画を立てました。来年度の活動は、今年よりも増える予定で、楽しい計画が盛りだくさんとっても楽しみです！



### 【活動予定】

- 4月13日(土) 里山体験教室下見
- 4月21日(日) 里山体験教室本番
- 4月28日(日) 山菜パーティー



この冬は、家の周囲の道路に2cm以上雪が積もらない、という珍しい状況でした。以前、御在所山の初冠雪が早いときは早く春が来る、と聞いたことがあります。この冬は、そのパターンだったのかもしれませんが。

庭のサンシュユも早々と満開となり、あちらこちらで木々の芽吹きが始まりました。先日は、個人的にユキワリイチゲを見に行きました。どんぴしゃりの満開で、わくわくが今も続いていますー！

### 【活動報告】

2月は、活動しませんでした。

#### ■ 3月3日(日) 「来年度の計画、持ち寄ったものの観察」 参加者: 3名

来年度のおおよその予定を、あらかじめメールで流した原案を基に3人で考えました。

その中で、4月初めから見始めたカエデについて、季節を追って見たい、花・実・葉の芽出しから種類ごとに違いを比べたい、種名と特徴をもっと覚えたいなどの意見が今までから出ていたことを確認。ちょうどフィールドレポートの調査もあり、もう一度押し葉・実の翼を再度見て、特にオオイタヤマメゲツと同定されたものを観察しました。イロハモミジとヤマモミジは、比べてもあまりはっきりと分からず、余計に分からなくなった感じでした。「雰囲気かあ？」という話にもなり、困ったものです(笑)。

植物も個体変異、個体差があり、見分けが難しいことを日々実感しています。特に以前から課題としている「葉1枚でどこまで分かるか」「種名が全てではないが、図鑑で調べて詳しく知ろうとすると、種名が手がかりとなる」「今まで知らなかったものを見たい、分解して調べたい、見つけたい」が、来年度も中心となっていきそうです。

4~9月の計画をたてながら、「そういえばミズメって何?」「つくし(スギナ)見つけて持ってきました→去年孢子を見せてもらって…」などと図鑑で調べたり、顕微鏡、実態顕微鏡を持ち出して観察したりしました。その結果、たった半期の計画に2時間を費やしてしまい、いつもの自由気ままな活動そのものになっていました。

その後、担当の芦谷先生にもアドバイスをいただき、細かい点も確認できて無事に終了しました。

1つのテーマや興味を持つことで、見たいもの、行きたい場所が次々と出てくるのも、この会での楽しみです。

ミズメー



### 【活動予定】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合や都合がつかない場合は、変更となることもあります。外部で行う観察会は、年に数回、はしかけの皆さんにも呼びかけを行っています。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。

#### ■ 4月14日(日)「カエデの花・芽出しをみよう」 ※メンバーでお出かけ

場所: 朽木 森林公園くつきの森

時間: 10:00 集合 トイレを済ませて、やまね館前(屋外)へ集合  
10:00~14:30 散策しながら観察 お弁当持参

#### ■ 5月11日(土)「MieMu(三重県立博物館)へ行こう」 ※はしかけへ呼びかけて参加を募ります

詳しくは、後日のはしかけ用メールで流していただきます

場所: 三重県津市 一身田 上津部田 3060 (いっしんでん、こうずべた)

三重県立博物館 MieMu(ミエム) ※展示は料金が必要です

時間: 午前「植物の企画展示をみよう」、午後「屋外の樹木観察」

#### ■ 6月2日(日)、7月7日(日)「博物館周りをみよう」 13:30~16:00 実習室、またはラボ集合

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(〇^)/

当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



## 【活動報告】

以前に紹介した、日本海側の更新統から初めて産出した *Pseudopodosira kosugii* の報告が、論文(短報)になりました。別刷あるいはPDFをご希望の方は、上記代表アドレスまでお知らせください。

大塚泰介・芝崎美世子・富小由紀・小滝篤夫・高原光・林竜馬・安野敏勝(2019) 京都府京丹後市の更新統の堆積環境の推定および日本海側更新統からの珪藻種 *Pseudopodosira kosugii* の初産出. 第四紀研究 58:57-63. (二重下線はたんさいぼうの会会員、下線は琵琶湖博物館職員)

富小由紀会員の初めての主著論文となる多賀町四手の蒲生層(前期更新統)から産出した化石珪藻の報告は、受理から4か月以上が過ぎたものの、まだゲラ校正が到着していません。出版までにもう少し時間がかかりそうです。

3月10日の「はしかけ登録講座」で、たんさいぼうの会は3名の新入会員を迎えました。

他の研究のうち、藤前干潟(名古屋市)の珪藻については、英文校閲や修正を終え、もう少しで投稿できるところまで来ました。他の研究については、年度末で皆さん仕事が忙しいこともあり、前号の報告からあまり進んでいません。瀬田公園(大津市)の珪藻については、一通りの同定を終え、現在、写真の撮り足しをしています。藤ヶ鳴湿原(岡山市)の珪藻も、あと少しで同定完了です。他に、愛知県の鉾質土壌湿地群などの珪藻の研究を進めています。

## 【活動予定】

4月6日(土)に、たんさいぼうの会第59回総会を以下の通り開催します。今回は三部形式です。

第1部(13:00-14:30): 交流室のたんさいぼうの会仕様スペースの整理(琵琶湖博物館交流室)

第2部(14:30-16:00): 総会本会議(琵琶湖博物館研究交流室; 研究棟2階)

※16:29発 近江鉄道・湖国バスもしくは会員自家用車等で移動

第3部(17:30-) 花見宴会(草津川跡地)

珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう」を、今回は愛知県水産試験場と共同で行うことを計画しています。今回は生きた珪藻の研究法ということで、底泥中の珪藻密度のMPN法による評価と、ヘマトキシリン核染色法による細胞の生死判別を学んでいきたいと考えています。詳細が決まったらまた報告します。

その他、これまでに採集してきた珪藻試料の整理、写真撮影、同定を分担して個別に進めていきます。また、珪藻電子図鑑の検索ページの作成を進めていきます。参加ご希望の方は上記代表アドレスまでご一報ください。



## (14) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

三寒四温という言葉通りに、暖かくなったと思うと冷たい風が吹きつけてくる3月。雪が山を白く染めても、春はもうすぐです。啓蟄というとカエルや魚が活動を始める時期ですが、私たちの研究対象はまだ土の中でぐっすりとお休み中でしょう。田んぼに水が入って、自由に泳ぐ日を夢見ているのでしょうか。

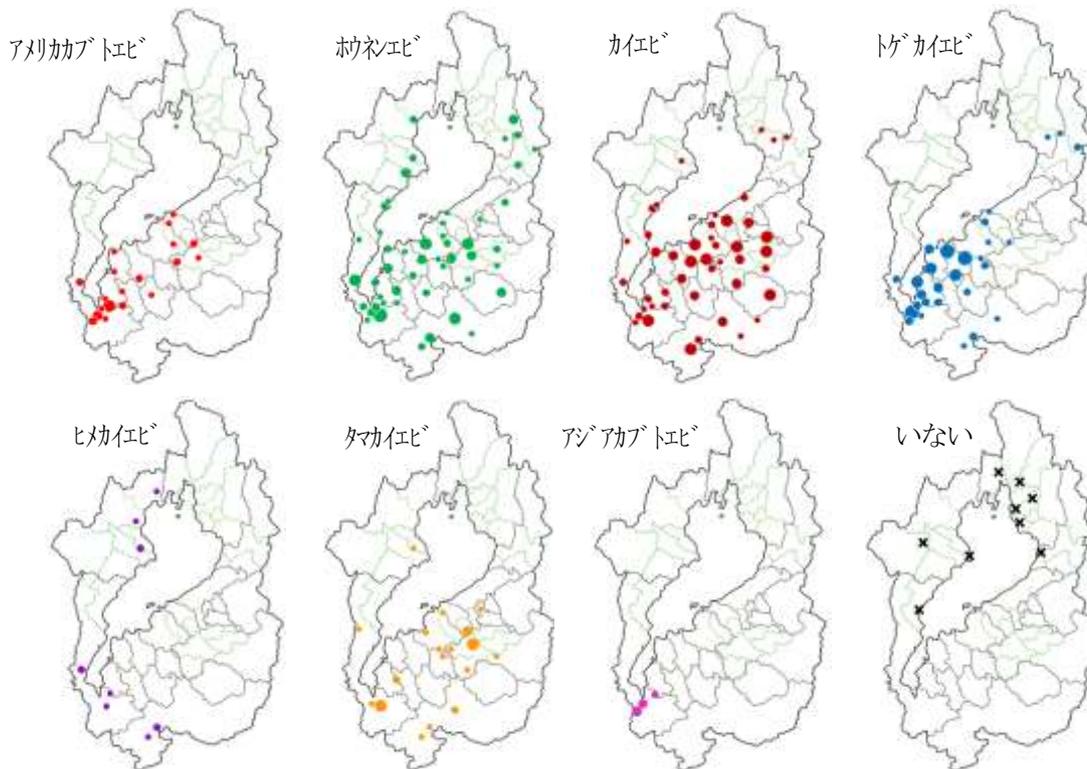
### 【活動報告】

#### ■ 3月10日(日) 13:30~16:00 場所: 琵琶湖博物館実習室1 参加者: 7名

はしかけ登録講座に合わせて今年初の総会を開きました。最初に鈴木学芸員から提案があり、副担当として農業工学が専門の下松孝秀学芸員を迎えることにしました。同時に会員名簿を整備し、長期間連絡の取れない会員は名簿から削除しました。その結果、グループの構成員は会員10名+学芸員2名になりました。

山川代表から、2年間にわたる広域調査の結果を分析した資料が配布され、説明がありました。統計処理を駆使した解析結果の解釈は難しく、ほとんどの会員は「???」だったのではないのでしょうか。

次年度(すなわち今年)は、「敵を知る」ことに活動の主眼を置き、飼育を試みるなかでエビ類の生態を実証的に研究することになりました。瀬田・石山寺地区におけるカブトエビ類の調査は続けますが、滋賀県内全域にわたるエビ類の分布調査はひとまず休止し、会員それぞれが身近な地域でエビ類の卵を集めて、発生条件や何を餌にしているかを調べることにしました。



滋賀県におけるエビ類の分布 (2017年~2018年の調査結果)

### 【活動予定】

例年通り、現在のところ、次年度の計画は以下の通りです。

- 5月26日 瀬田・石山寺地区調査の準備
- 6月9日 瀬田・石山寺地区におけるカブトエビ類の調査
- 7月 同定会

(石井千津)



## (15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

### <「タンポポ調査・西日本2020」が3月から始まります!>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度、2年にわたって実施される広域調査ですが、ついに来る3月から「タンポポ調査・西日本2020」の調査が始まります。琵琶湖博物館は、前回に引き続いて滋賀県の実行委員会を引き受けることになりました。いよいよ、タンポポ調査はしかけグループの本領発揮です。

### <はしかけメンバー募集中!>

2019年3月から調査が始まります。調査期間は2019年2020年ともに3月～5月です。調査中から終了後にかけて、滋賀県のサンプルの整理をします。タンポポまみれになって、タンポポに詳しくなりましょう!興味のある方は、上記メールアドレスに連絡をくださるか、博物館で学芸員の芦谷に声をおかけください。

### <「タンポポ調査・西日本2020」の調査票、2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書を配布します!>

「タンポポ調査・西日本2020」の調査票と前回(2015年)の結果のチラシを、琵琶湖博物館の「おとなのディスカバリー」の植物コーナー周辺に設置し、自由に持ち帰れるようにしています。(写真1)

### 【活動報告】

2019年3月2日(土)に、大阪市立自然史博物館において調査報告会(一般参加者向け)と実行委員会、講習会(スタッフ向け)が開催されました。このはしかけグループからは、2名が参加しました。前半の調査報告会では、まず室内でタンポポ調査の概要の説明がありました。兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武さんが、一般参加者向けといひながら、かなりディープなお話をしてくださった後、博物館の敷地から出て長居公園の芝生の上でタンポポを観察しました。

午後からは、調査の全体の進め方を確認していく実行委員会が開かれました。やっと始まった「タンポポ調査・西日本2020」について、活発な意見交換がなされました。(写真2、写真3)



写真1 今回の調査票つきチラシ(右)と前回の結果チラシ(左)



写真2 長居公園での説明会の様子



写真3 ひとはくの鈴木さん所蔵の逸品

### 【活動予定】

#### ●琵琶湖博物館での調査説明会 (於: 琵琶湖博物館 実習室)

\*このグループに参加していない「はしかけ」の方も大歓迎です!!ご自宅の周りでタンポポ調査をしませんか?

日時: 2019年4月13日(土)・20日(土) いずれも13:30~15:00(13:00より受付開始)

内容: まずは室内で、タンポポ調査の概要、前回の調査の結果の報告、タンポポ調査への参加方法、実際の調査の仕方を説明し、天候がよければ琵琶湖博物館がある鳥丸半島の芝生広場周辺で、実際にタンポポの調査を体験してみます。「タンポポ調査・西日本2020」の調査票がついたチラシ、前回の結果チラシ、前回の報告書など、ご希望の方に差し上げます(報告書は部数に限りがあります)。雨天の場合は、タンポポの花が閉じてしまうので、室内での説明のみとなります。

その他: 「はしかけ」の皆さんは参加料無料です。一般の方は保険料100円を頂きます(屋外に行く場合)。



工房に春がやってきました。ちこあその2月と3月の活動の報告です。

◆2月20日(水)

寒さの中、温かさも見える2月。今回の発見は、なんといってもハリガネムシ。メンバーが田んぼの中で「何か線のようなものが動いている！」と発見してくれたところから、始まりました。定規をあてて長さを測ってみると43センチ！うねうね動く姿がなんとも奇妙です。水中生活からカマキリなどへ寄生し、再び水中へ宿主をコントロールして戻る生活史を伝えると、お母さん方一同に「ギョー！」な驚きの声。皆さん、初めて知ったとのこと。お尻を結んでみると自力でほどく能力を持っていることを発見したり、乾いてくると動きが鈍くなることを見つけたり、ハリガネムシ一色の1日でした。

◆3月20日(水)

とても暖かい日になり、子どもも自然も元気あふれていました。フキノトウを取りに、工房からアトリウム前の広場へ遊びに出かけると、ヨモギ摘みにタンポポ取りに、かけっこにと大忙し。ガチャコンポンプでは、定番の水遊びに始まり、結局裸ん坊で水かけっことになりました。太陽の温かさと共に、子どもも元気になるんだなあ、自然だなあと思いました。ちょうど小学校や幼保園が早く終わる日でしたので、以前ちこあそに来ていた子どもたちも、久しぶりにやってきて、幼児から小学生まで賑やかでした。4月から保育園や幼稚園で来られない子もいますが、ぜひ工房行事やちこあそに遊びに来てくださいね。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
2月	2月20日(水) 10:00-14:00	冬から春に向かう自然を見つけよう！ ちこあそ2月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども5人、保護者4人、学生1名
3月	3月20日(水) 10:00-14:00	もう春ですね。草や花も、木も虫も元気いっぱい ちこあそ3月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー3人、子ども14人、保護者7人

【活動予定】

	実施日	タイトル	内容
4月	4月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ2月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。 ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
5月	5月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ3月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。 ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

◆2月の様子



左) 田んぼ遊び。この田んぼにハリガネムシがいました。  
右) みんなでハリガネムシ観察。

◆3月の様子



左) 広場で琵琶湖に向かってヤッホー  
右) フキノトウ取りのついでに、ヨモギがいっぱい生えてました。ヨモギ摘みもしました。



## (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

### 【活動報告】

#### ■ 2月17日(日) 参加者: 2名

博物館前のプランクトンなどを観察しました。メンバーの方が守山でプランクトンを採集してきてくださったので北湖と南湖の沿岸(博物館前)のプランクトンを見比べることが出来ました。この日、博物館前ではハネウデワムシが多かったのですが守山のサンプルではドロワムシが多くみられました。また博物館前でプランクトンネットで採集したサンプルには底生のワムシが少し入っていました。

午後は大塚学芸員に瀬田公園で採集した有殻アメーバを見せて頂きました。アメーバ自体はすでに死んでいましたが残されたきれいな殻を観察することが出来ました。



*Encentrum* sp.



*Encentrum* sp. の咀嚼板



*Cephalodella auriculata*



有殻アメーバの1種

### 【活動予定】

次回開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



【活動報告】

■ 2月9日(土)「樹冠トレイルを歩こう！」参加者: 36名

今回のわくたんは、昨年11月に完成した樹冠トレイルを使った「樹冠トレイルを歩こう！」でした。林学芸員を博士として招き、はしかけグループ「森人(もりひと)」のみなさんにサポートをしていただきコラボ企画でした。当日は、今シーズン最強寒波の襲来!(北日本と関東方面は低温と積雪で大変だったということですが)という日でしたが、烏丸半島付近では、空気は冷たいものの風は無く、時折太陽が雲間から顔をのぞかせるといった天候でした。そんな中、たくさんのみなさんにご参加いただきました。受付後、林学芸員から屋外展示と樹冠トレイルの説明がありました。「樹冠トレイルでは、樹木の春準備を探してみてください」や「森の中でいろんな木の実を拾いましょう」という活動の目当てを言ってもらい、10人程度のグループに分かれて出発しました。各グループに付いていただいた森人のみなさんにガイドをしてもらいながら、10mの高さから新芽の膨らみを見つけたり木の実をたくさん拾いました。展望デッキでは雪化粧した比良山系や琵琶湖を眺めながら、冬の琵琶湖周辺の景色を楽しむこともできました。約45分程度でしたが、寒さを忘れてみなさん活動に夢中になっておられました。



■ 3月9日(土)「火起こし体験をしよう！」参加者: 53名

今年度最後のわくたんは、「火起こし体験をしよう！」でした。受付開始前に定員に達するという人気ぶりに驚きを隠せないスタッフでしたが、定員に達したために入場をお断りした家族連れのみなさんには大変申し訳なく心苦しい限りでした。受付終了後は生活実験工房に移動し、下松学芸員を博士に招いて「火」についてのお話を聞きました。そして、いよいよ火起こし体験! 「まい切り式火起こし器」の使い方を聞いてから火起こしの実演を見てもらい、家族ごとに火起こしに挑戦してもらいました。



当日は雲ひとつない青空の下、春の陽気に包まれながら大人から子どもまで一生懸命に火起こしにチャレンジしていました(花粉症の人には辛かったかもしれません)。火種を作る為の木は桐を使い、削ってできた火種を麻布の火口(ほくち)に移して火を大きくしました。しかし、火種を麻布に移すことがスムーズにできず、火を大きくすることはできませんでした。しかし、家族が協力しながらあの手この手と工夫を凝らしながら最後まで諦めることなく必死になって取り組み、火を起こす大変さや火の大切さを実感できたように思います。汗をかきながらのあっという間の1時間でした。みなさんお疲れさまでした。

びわたん(こばやん)



## 【活動予定】

- 5月11日(土)  
「春の草花でしおりを作ろう！」
- 6月8日(土)  
「石ころdeアート！」



## (19) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子, 高橋啓一

## 【活動報告】

### ■ 1月26日(土) 参加者: 6名

ノゴマ(という名前の鳥類です)の解剖、テンの解剖を行いました。

ノゴマの制作をされていた方は小鳥は初めての制作だったので緊張しながらも、慎重にしっかりと手順を確認しながら作業してらっしゃいました、小鳥の皮はものすごく薄いので、それを破ってしまわないように注意深く進めなくてはならないのですが、あまり時間をかけすぎると今度は乾燥し過ぎてしまい、皮が破れてしまう原因になってしまうので、状態を確認しながらの丁寧な作業が求められますが、しっかりと最後まで集中して作業してくださいました。

### ■ 2月10日(日) 参加者: 2名

ゲンゴロウブナの除肉、イタチの解剖、テンの除肉を行いました。

テンの除肉作業がひと段落したので、続いてイタチの制作を開始しました。

テンとイタチは同じイタチ科で外見も近いものがあるので、何か類似点や逆に異なる点を見つけることが出来ないかと思ひ、制作を始めたのですが、冷凍状態から解凍したところ、どうやらロードキルされたものだったようで、あちこちの骨が割れてしまっていて、観察するどころか小さな破片のような骨を見逃さないようにするだけで精一杯で、黙々と作業する事となってしまいました。

### ■ 2月23日(土) 参加者: 5名

イタチの解剖、ハクビシンの骨の整理、オオバンの除肉を行いました。

### ■ 3月10日(日) 参加者: 4名

イタチの除肉、ゲンゴロウブナの除肉、タヌキの除肉、ハクビシンの除肉を行いました。

また、はしかけ登録会において活動紹介を行いました。

そろそろ春の気配が感じられるようになってきたので、冬の間で作っておいたいくつかの骨をまとめて水浸けの工程に回しました、水温が低いと微生物などがよく働いてくれなくて、なかなか分解が進まずキレイな骨になってくれませんが、これからの季節はだんだんと暖かくなっていくので、夏場に向けて計画的に作業を進めて行きたいと思っています。

## 【活動予定】

4月、5月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



## (20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

### 【活動報告】

■ 2月10日(日) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 11名

#### ・M&Pソープ作り

電子レンジなどで熱を加えると溶けて液状になり、好きなハーブや色粉を入れて混ぜ、型に入れて固めるM&Pソープ作りを行いました。MはMel t (溶ける)、PはP our (注ぐ) という意味で、グリセリンソープとも呼ばれています。メンバーが各自、好きな型やハーブ、押し花などを持ち寄り、いろいろな石鹸を作りました。ターメリック (ウコン) の粉末を入れたり、パンジーの押し花を石鹸に入れたり、またはマイカと呼ばれる鉱物からできている顔料 (ピグメント) で色を付けたり、楽しく石鹸作りが出来ました。

#### ・カレンデュラのミツロウクリーム作り

メンバーさんから無農薬のカレンデュラの花びらをいただいたので、ホホバオイルに漬け込み、カレンデュラの浸出油を作りました。そのオイルとミツロウで、カレンデュラのミツロウクリームを作りました。ミツロウクリーム作りは、昨年や一昨年も作ったことがあります。初めて作るメンバーもいたので、紹介することが出来てよかったです。

(参加者の感想)

☆M&Pソープは思ったより簡単にでき、自分のデザインで作れるので良いと思いました。

カレンデュラクリームも試してみます。

☆M&Pソープは宝石や化石、押し花石鹸ができてほんとに楽しい時間を過ごすことが出来ました。

とても応用がきく素材です。カレンデュラクリームはガサガサかかるとに試したいです。

☆素敵な石鹸が出来るととても嬉しかったです。カレンデュラクリームもしっとりいい感じに仕上がりに、楽しい一日ありがとうございました。

☆石鹸作りは簡単にでき、子供みたいにわくわくしながら楽しめました。出来上がりもとてもきれいで感動しました。



■ 3月15日(金) 場所: 琵琶湖博物館 研究交流室 参加者: 12名

#### ・年度末総会

年度末の活動報告と会計報告、来年度の年度計画を行いました。今年度の活動では、よもぎ、ドクダミ、ビワ、七草といった毎年、利用法を交流している薬草に加えて、へちま化粧水や小豆マッサージなど新しい素材を使ったものや、バスソルト、石鹸など生活の中で使用できるものに薬草を使った手作りにも挑戦しました。またびわ博フェスは、ヒバの蒸留体験とアロマスプレー作りのワークショップを開催しました。

来年度の計画では、いろいろな意見が出て、盛り沢山の年間計画となりました。メンバーも増えてきたので、把握するために名簿を改めて作ることになりました。来年度も楽しく活動していきたいです。

### 【活動予定】

■ 4月17日(日) 10:00~15:00 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 ハーブを使ったシフォンケーキ作りと野草せんべい作り



## (21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

### 【活動報告】

- 1月26日(土) 10時~15時 2019年の活動についての話し合い 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者: 11名  
2019年の活動について、メンバー皆さんの希望を出し合い、概要を決めました。
- 2月16日(土) 10時~12時 琵琶湖博物館 動物収蔵庫見学 場所: 生活実験工房・動物収蔵庫 参加者: 11名  
収蔵庫の役割や所蔵品について、八尋学芸員より説明を受けました。  
その後、昆虫標本の見学・学習をしました。



活動の様子



活動の様子

### 【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。  
野外調査は、昆虫を中心に滋賀県内の分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。  
ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。 (文責: 梶田)



【活動報告】

■ 1月26日(土) 10:00~12:00 動物観察用自動カメラ設置と屋外展示ガイド冊子の改定 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 3名 (博物館職員) 林

内容: ①自動カメラ関係・・・点検のため一時中断していた3台のカメラを再設置した。

②屋外の森のガイド冊子改定・・・サワグルミをクヌギに表紙のセコイアをメタセコイアにそれぞれ変更する。化石の写真を入手し2月15日までに最終原稿を仕上げる予定とする。

■ 2月9日(土) 13:30~15:30 動物観察用自動カメラ確認と屋外展示ガイド冊子の改定 場所: 実習室2、屋外の森

参加者: (会員) 4名 (博物館職員) 林

内容: ①【わくわく探検隊】 樹冠トレイルを歩こう!びわたんと共催・・・3グループに分かれ樹冠トレイル、田んぼおよび屋外の森を散策しツバキ、ハンノキ、タネツケバナ、ヒメオドリコソウなどの花や大きくなったタブの冬芽などを観察した。②自動カメラ関係・・・1月26日に再設置したカメラ内容の確認のためSDカードを回収した。

■ 2月23日(土) 10:00~12:00 動物観察用自動カメラ確認と樹名板設置の検討など 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林

内容: ①自動カメラ関係・・・落葉広葉樹の森のカメラを再設置した。縄文弥生の森の2台は作動状況が安定せず点検のため取り外した。②樹名板設置・・・屋外展示ガイド冊子を見ても実際の木が特定しにくいとの声があり検討する。

■ 2月23日(土) 13:20~15:40 新琵琶湖学セミナーの聴講 場所: セミナー室 参加者: (会員) 5名

\*花粉の化石からみる琵琶湖の森の一万年 林竜馬

\*出土遺物からみた木材利用の変化 村上由美子(京都大学総合博物館)

■ 3月9日(土) 13:30~15:30 動物観察用自動カメラ確認、樹名板の検討と樹木の整備

場所: おとなのディスカバリー、屋外展示の森 参加者: (会員) 6名 (博物館職員) 林

内容: ①自動カメラ関係・・・落葉広葉樹の森のカメラを回収した。今シリーズはいったん終了する。今シリーズではキジバト、シロハラ、イタチ、ネコ、ネズミ、タヌキが確認された。前回との比較は設置場所の変更もあり難しいがキツネとアライグマが確認されないなど種類と回数が少なかった。ただ自動カメラならではの印象的な写真も撮影された。



アケビコノハ 2018/12/23 1:37



オオバンをくわえたネコ

2018/12/20 16:29

②樹名板の検討・・・試作品を樹冠トレイル内に仮設置して字の大きさや取付位置および設置する樹木の選定を行った。今後アクリル板などで20枚程度手作りする。③樹木の整備・・・樹冠トレイルの折れた枝葉の除去(手の届く範囲のみ)および太古の森の樹木に這い上がったツタを除去した。④屋外展示ガイド冊子の改定・・・納入された完成版が本日お披露目された。外見的には良い感じで今後のガイドツアーなどで活用したい。

【活動予定】

- ◎3月23日(土) 10:00~12:00 内容: 来年度計画、樹高測定など 場所: 生活実験工房
- ◎4月13日(土) 13:30~15:00 内容: 未定
- ◎4月27日(土) 13:30~15:00 内容: 未定

★森が好き、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか  
★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。

梁山泊のメンバーは、研究グループや個人で博物館に来館し、学芸員に研究の相談にのってもらうことで、研究を円滑に進めています。3月は研究発表をする機会が多く、琵琶湖博物館で研究発表をすることもありました。中高生メンバーは発表後にコメントをもらうことができました。また、研究環境を含めた豊かな社会についてディスカッションをする経験を積むこともでき、有益な時間を過ごすことができましたのではないかと思います。

【活動報告】

■ 3月14日(木)

帝塚山中学校の堀江夏妃さんが応募した研究レポート「プラナリアの不思議Ⅲ」が、誠文堂新光社出版の「子供の科学」という科学雑誌でルイ殿賞を受賞しました。詳細は子供の科学2019年4月号で読むことができます

審査員のコメントには、「動機・方法・結果・考察をしっかりと書きこみ、レポートの完成度が高い」と書かれていました。夏妃さんは、「子供の科学」の応募レポートでは6年連続で入賞したことになります。今後の活躍に期待します。

夏妃さんから受賞のコメントをもらっています。

「今年度は昨年に引き続き、プラナリアの食性について調べました。食塩水の濃度を塩分濃度計を使用して測定するのがとても難しかったです。来年度も頑張りたいと思います。最後になりましたが、お世話になった先生方、ありがとうございます。」

■ 3月16日(土) 日本藻類学会第43回大会ポスター発表(京都大学) 参加者: 2名

米原高校地学部1年生の島津さんがミーティングの様子をレポートしてくれました。

私は米原高校地学部のポスター発表「姉川流域の縄文時代の古環境復元」を、11人の発表者を代表して行いました。私の発表で藻類学会の人たちの米原高校の印象が決まると思うと緊張しましたが、私たちのポスターを見に来てくださった人達は、そんな緊張している私を見て、「そんなに固くならなくてもいいよ」などと声をかけてくださりました。今回、沢山の質問がありましたが、そのうちの2つを書かせていただきます。まず、沢山聞かれた「この研究を今後どのように活かしていきたいか」この質問に対し、私はこの研究を色々な場所で発表することによって花粉化石の応用で年代を見ることが出来ること、また、誰も調べていないことを調査しているので少し大袈裟かもしれませんが地質歴史界における新たな1ページを作ることによって貢献することが出来るのではと答えました。また、「今旧小泉湖は存在するのか、また、年代にそっての小泉湖の変遷は分からないのか」という質問に対し、今は存在していないことに、今の課題は10000~5000年の湖の変遷を調べることだということ添えて説明しました。また、珪藻 *Aulacoseira tenella* と *Aulacoseira pusilla* がとても似ていること、織田信長に関わりのある姉川の戦いなどについて教わり、色々な知識も蓄えることが出来ました。とても勉強になった一日でした。

■ 3月17日(土) 午後 びわはく学生ミーティングへの参加 場所: セミナー室 参加者: 9名

米原高校地学部1年生の島津さんがミーティングの様子をレポートしてくれました。

私は地学部門のステージ発表を行ったのがこの発表会が初めてなので、きちんと原稿を覚えているか、そもそも私がこの研究を完全に理解しているのか、と不安に思いながらこの発表を行いました。今思うと練習不足だったなあと感じます。発表が終わると大学生の方々が沢山の質問をしてくれました。「年代が変わるにつれて川の水質は変わらないのか」という質問がありました。川の水質は、主にその地質によって決まるものなので、そんなに変化はないと思いました。また、「植物化石のカーボンをするお金が無いなら研究補助金制度を活用してはどうか」などといった助言も頂きましたし、年縞博物館の存在も質疑応答の時間があつたおかげで知ることが出来ました。今後の研究にとっても参考になりました。



また、1番最後に持続可能で豊かな社会にする為にはという話し合いが行われました。1グループ6人ほどで話し合いを行いました。話し合いの結果、私のグループにとっての持続可能で豊か社会作りは、まず、自分が継続して出来ること、皆に何故こうすることが大事なのかを理解してもらうこと、そして、本当の豊かさは、ただ自然や動物が沢山あふれていることではないのではないのかということなど、普段ではここまで深く考えた事なかったものが見えてきたり、自分の意見とは違った意見を聞いたりして自分もまた1つ成長したような気がします。

【活動予定】

今後は研鑽会だけでなく、研究を進めるために必要な勉強会も開催します。



## (24) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

### 【活動報告】

#### ■ 1月27日(日) 13:30~15:30 今後の方針について議論

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 5名 (はしかけ4名 学芸員1名)

前回参加していなかった人のために科学館的な実験を実演してみたあと、こういう実験によって何を指したいかという議論になりました。そこから発展して「ビワマス釣りに絡んで水温などの観測をしてみたい」という具体的なアイデアが示され、その実現性を検討してみることになりました。

#### ■ 3月12日(日) 13:30~15:30 湖上観測の実現可能性について検討

場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 4名 (はしかけ3名 学芸員1名)

メンバーが所有されている釣り船で水温観測をするというアイデアについて、制度的な問題や安全管理上の問題は無いことが確認され、どこの観測点を目標にするかということも方針が定まりました。その結果、観測に必要な機器の調達が問題として残り、さらに情報収集を進めることになりました。

### 【活動予定】

#### ■ 4月中(日程調整中) 今後の活動方針について

「船舶観測の具体的な計画」「船舶観測以外の活動の可能性の検討」を予定しています。



## (25) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 楊 平

### 【活動報告】

#### ■ 1月31日(木) 里山景観としての大津市湖西「仰木の里棚田」周辺調査 参加者: 5名

「仰木の里棚田」における棚田保全活動の現状の取組み活動および、課題を調査した。

#### ■ 2月8日(金) 里山景観としての高島市「鵜川棚田」の周辺調査 参加者: 5名

「高島市鵜川棚田」における棚田保全活動の現状の取組み活動および、課題を調査した。

(本稿の執筆者 小篠)

### 3. 生活実験工房からのお知らせ

---

春の訪れとともに、生活実験工房の田んぼ体験行事が始まります。稲作作り体験では、5月～10月までの活動日が決まりましたので、お知らせします。時間を見つけて、体験活動へのご参加をよろしくお願ひします。

担当職員：下松 孝秀

#### 【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 (受付 9:30～) 場所：生活実験工房  
各自、長靴、着替え等をご用意ください。

5月12日(日) 田植え  
7月14日(日) 昆虫採集  
9月8日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)  
10月6日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

### 4. その他の事項

---

#### (1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなつて、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「\*\*\*@biwahaku.jp」、ホームページは「https://www.biwahaku.jp/」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

#### (2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニュースレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

#### (3) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送つて下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

#### (4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

#### (5) はしかけ活動中に事故が起つたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。